

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月13日
【四半期会計期間】	第55期第2四半期(自平成24年7月1日至平成24年9月30日)
【会社名】	A s - m e エステール株式会社
【英訳名】	As-me ESTELLE CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 丸山 雅史
【本店の所在の場所】	東京都港区虎ノ門四丁目3番13号
【電話番号】	03 - 5777 - 5120(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 渡邊 正直
【最寄りの連絡場所】	東京都港区虎ノ門四丁目3番13号
【電話番号】	03 - 5777 - 5120(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 渡邊 正直
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第54期 第2四半期連結 累計期間	第55期 第2四半期連結 累計期間	第54期
会計期間	自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日	自平成24年 4月1日 至平成24年 9月30日	自平成23年 4月1日 至平成24年 3月31日
売上高(百万円)	13,546	14,377	29,177
経常利益(百万円)	877	1,066	2,565
四半期(当期)純利益(百万円)	297	646	1,100
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	181	565	1,096
純資産額(百万円)	9,526	10,765	10,422
総資産額(百万円)	30,135	31,293	31,361
1株当たり四半期(当期)純利益金 額(円)	26.63	57.95	98.67
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	31.6	34.4	33.2
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	549	767	2,771
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	308	215	134
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	123	776	652
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	3,990	5,644	5,867

回次	第54期 第2四半期連結 会計期間	第55期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日	自平成24年 7月1日 至平成24年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	24.53	40.25

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用環境や個人消費に穏やかながら改善が見られ、総じて景気は緩やかな回復基調にありました。ただ、足許では、欧州景気の低迷がアジア経済に浸透しはじめ、世界経済を牽引してきた中国における景気減速などの外部要因により景況感は悪化しており、個人消費では、消費増税や景気先行きに対する警戒感から選別的消費が強まっているなど、全体として足踏みの状態となっております。

当社グループの当四半期における店舗展開としては、当社では6店舗を出店、3店舗を閉鎖し、当四半期末店舗数は376店舗（前年同期末377店舗）となり、メガネ小売のキンバレー(株)では2店舗を出店、1店舗を閉鎖し、41店舗（前年同期末40店舗）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は、既存店売上の改善などにより143億77百万円（前年同期比6.1%増）となり、営業利益は9億74百万円（同13.1%増）となりました。経常利益は、前期に海外子会社において計上した為替差損が当期になかったことなどから10億66百万円（同21.5%増）となりました。四半期純利益は、固定資産の減損損失の減少等により6億46百万円（同117.6%増）となりました。

なお、当社グループの報告セグメントは「宝飾品」及び「眼鏡」であります。が、「眼鏡」の全セグメントに占める割合が低く、重要性に乏しいため、第1四半期連結累計期間よりセグメントごとの売上高及び利益又は損失について記載しておりません。

#### (2)キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物残高は、前連結会計年度末の58億67百万円より2億23百万円減少し、56億44百万円となりました。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは7億67百万円のプラス（前年同期は5億49百万円のプラス）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益10億46百万円、仕入債務の増加2億72百万円及び減価償却費2億29百万円の資金増加と、たな卸資産の増加3億99百万円、法人税等の支払額2億54百万円及び負ののれん償却額1億63百万円の資金減少によるものであります。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは2億15百万円のマイナス（前年同期は3億8百万円のマイナス）となりました。これは主に敷金保証金の返還1億93百万円及び投資有価証券の売却71百万円の収入と、固定資産の取得3億23百万円、子会社設立による出資80百万円及び敷金保証金の差入40百万円の支出によるものであります。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動におけるキャッシュ・フローは7億76百万円のマイナス（前年同期は1億23百万円のマイナス）となりました。これは主に社債の償還3億円、配当金の支払2億23百万円、長期借入金の減少1億48百万円（純額）及び短期借入金の減少69百万円（純額）の支出によるものであります。

#### (3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (4)研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,000,000
計	15,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,459,223	11,459,223	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	11,459,223	11,459,223	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減 額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	-	11,459,223	-	1,571	-	1,493

## ( 6 ) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
丸山 朝	東京都杉並区	2,661,900	23.23
株式会社桑山	東京都台東区上野二丁目23番21号	463,750	4.05
A s - m e エステール取引先 持株会	東京都港区虎ノ門四丁目3番13号	341,950	2.98
小島 康誉	東京都港区	326,700	2.85
丸山 雅史	東京都杉並区	316,000	2.76
丸山 範子	東京都杉並区	311,800	2.72
エイチエスピーシー プライ ベートバンク(スイス)エス エー シンガポール トラスト アカウント クライアantz (常任代理人 香港上海銀行東 京支店)	東京都中央区日本橋三丁目11番1号	273,200	2.38
株式会社雅コーポレーション	東京都杉並区善福寺二丁目36番3号	250,000	2.18
A s - m e エステール従業員 持株会	東京都港区虎ノ門四丁目3番13号	249,778	2.18
小島 聡子	東京都港区	238,750	2.08
計	-	5,433,828	47.42

(注) 上記のほか、自己株式が302,785株あります。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 302,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,124,800	111,248	-
単元未満株式(注)	普通株式 31,723	-	-
発行済株式総数	11,459,223	-	-
総株主の議決権	-	111,248	-

(注) 「単元未満株式」の普通株式には、当社所有の株式85株が含まれております。

## 【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) A s - m e エステール株式会社	東京都港区虎ノ門四丁目3番13号	302,700	-	302,700	2.64
計	-	302,700	-	302,700	2.64

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、爽監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	6,167	5,944
受取手形及び売掛金	2,649	2,467
商品及び製品	8,539	8,877
仕掛品	1,553	1,644
原材料及び貯蔵品	1,849	1,819
その他	363	403
貸倒引当金	1	0
流動資産合計	21,121	21,155
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	2,248	2,332
無形固定資産	425	379
<b>投資その他の資産</b>		
敷金及び保証金	4,878	4,708
その他	2,690	2,720
貸倒引当金	2	2
投資その他の資産合計	7,565	7,427
<b>固定資産合計</b>	10,239	10,138
<b>資産合計</b>	31,361	31,293
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	3,777	4,049
短期借入金	1,090	1,021
1年内返済予定の長期借入金	4,014	3,799
1年内償還予定の社債	460	270
未払法人税等	412	429
賞与引当金	380	401
その他	1,442	1,346
流動負債合計	11,577	11,317
<b>固定負債</b>		
社債	120	10
長期借入金	6,608	6,674
退職給付引当金	1,402	1,443
役員退職慰労引当金	423	463
関係会社事業損失引当金	2	2
資産除去債務	46	52
負ののれん	654	490
その他	103	72
固定負債合計	9,361	9,210
<b>負債合計</b>	20,938	20,528

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,571	1,571
資本剰余金	3,384	3,384
利益剰余金	5,420	5,843
自己株式	146	146
株主資本合計	10,229	10,652
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	318	251
為替換算調整勘定	125	139
その他の包括利益累計額合計	193	112
純資産合計	10,422	10,765
負債純資産合計	31,361	31,293

## ( 2 ) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【 四半期連結損益計算書】

## 【 第 2 四半期連結累計期間】

( 単位 : 百万円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)
売上高	13,546	14,377
売上原価	5,144	5,513
売上総利益	8,401	8,863
販売費及び一般管理費	1 7,540	1 7,889
営業利益	861	974
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	34	34
負ののれん償却額	180	163
為替差益	-	0
その他	51	45
営業外収益合計	266	244
営業外費用		
支払利息	150	131
為替差損	73	-
その他	26	21
営業外費用合計	250	152
経常利益	877	1,066
特別利益		
投資有価証券売却益	-	37
受取補償金	2	-
特別利益合計	2	37
特別損失		
固定資産除売却損	23	24
店舗閉鎖損失	5	4
減損損失	253	28
関係会社整理損	-	0
投資有価証券評価損	10	-
特別損失合計	294	57
税金等調整前四半期純利益	586	1,046
法人税等	288	399
少数株主損益調整前四半期純利益	297	646
四半期純利益	297	646

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	297	646
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	86	67
為替換算調整勘定	29	13
その他の包括利益合計	115	80
四半期包括利益	181	565
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	181	565
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

## ( 3 ) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

( 単位：百万円 )

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	586	1,046
減価償却費	197	229
減損損失	253	28
負ののれん償却額	180	163
貸倒引当金の増減額 ( は減少 )	0	0
退職給付引当金の増減額 ( は減少 )	31	40
役員退職慰労引当金の増減額 ( は減少 )	3	40
賞与引当金の増減額 ( は減少 )	14	20
受取利息及び受取配当金	34	35
支払利息	150	131
投資有価証券売却損益 ( は益 )	-	37
投資有価証券評価損益 ( は益 )	10	-
関係会社清算損益 ( は益 )	-	0
固定資産除売却損益 ( は益 )	-	20
売上債権の増減額 ( は増加 )	269	182
たな卸資産の増減額 ( は増加 )	39	399
仕入債務の増減額 ( は減少 )	117	272
未払金の増減額 ( は減少 )	72	43
その他	61	216
小計	832	1,115
利息及び配当金の受取額	34	35
利息の支払額	148	128
法人税等の支払額	167	254
営業活動によるキャッシュ・フロー	549	767
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の取得による支出	103	1
投資有価証券の売却による収入	-	71
子会社出資金の取得による支出	-	80
関係会社の整理による収入	-	6
固定資産の取得による支出	355	323
固定資産の売却による収入	-	1
敷金及び保証金の差入による支出	128	40
敷金及び保証金の回収による収入	320	193
その他	42	42
投資活動によるキャッシュ・フロー	308	215

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	33	69
長期借入れによる収入	2,530	2,100
長期借入金の返済による支出	1,958	2,248
社債の償還による支出	508	300
割賦債務の返済による支出	29	22
リース債務の返済による支出	13	14
自己株式の取得による支出	-	0
配当金の支払額	178	223
財務活動によるキャッシュ・フロー	123	776
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	115	223
現金及び現金同等物の期首残高	3,874	5,867
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 3,990	1 5,644

【会計方針の変更等】

( 会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更 )

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第 1 四半期連結累計期間より、平成24年 4 月 1 日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更による四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

( 税金費用の計算 )

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は損失に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

【注記事項】

( 四半期連結損益計算書関係 )

1. 販売費及び一般管理費の主なもの

	前第 2 四半期連結累計期間 ( 自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日 )	当第 2 四半期連結累計期間 ( 自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日 )
給与手当	3,127百万円	3,131百万円
賞与引当金繰入額	342	395
役員退職慰労引当金繰入額	29	44
支払家賃	1,647	1,713

( 四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係 )

1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第 2 四半期連結累計期間 ( 自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日 )	当第 2 四半期連結累計期間 ( 自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日 )
現金及び預金勘定	4,290百万円	5,944百万円
預入期間が 3 ヶ月を超える定期預金	300	300
現金及び現金同等物	3,990	5,644

( 株主資本等関係 )

前第 2 四半期連結累計期間 ( 自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日 )

配当に関する事項

配当金支払額

( 決議 )	株式の種類	配当金の総額 ( 百万円 )	1 株当たり配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年 6 月28日 定時株主総会	普通株式	178	16円00銭	平成23年 3 月31日	平成23年 6 月29日	利益剰余金

当第 2 四半期連結累計期間 ( 自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日 )

配当に関する事項

配当金支払額

( 決議 )	株式の種類	配当金の総額 ( 百万円 )	1 株当たり配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年 6 月28日 定時株主総会	普通株式	223	20円00銭	平成24年 3 月31日	平成24年 6 月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額(注)1	四半期連結損益計算書計上額(注)2
	宝飾品	眼鏡	計		
売上高					
外部顧客への売上高	12,787	759	13,546	-	13,546
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	12,787	759	13,546	-	13,546
セグメント利益又はセグメント損失( )	855	2	853	8	861

(注)1. セグメント利益又はセグメント損失( )の調整額8百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第2四半期連結累計期間において、「宝飾品」セグメント及び「眼鏡」セグメントにおける遊休不動産及び店舗の設備等の固定資産について、それぞれ213百万円及び40百万円の減損損失を認識いたしました。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

当社グループの報告セグメントは「宝飾品」及び「眼鏡」であります。が、「眼鏡」の全セグメントに占める割合が低く、重要性に乏しいため、第1四半期連結累計期間よりセグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	26円63銭	57円95銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	297	646
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	297	646
普通株式の期中平均株式数(千株)	11,156	11,156

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。



## 2【その他】

該当事項はありません。

**第二部【提出会社の保証会社等の情報】**

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月9日

A s - m e エステール株式会社  
取締役会 御中

### 監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 霧生 卓 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 登 三樹夫 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているA s - m e エステール株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、A s - m e エステール株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。